

鋁工業指数参考図表集
(2022年7月速報)

2022年8月31日

經濟解析室

URL : <https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result-1.html>

2022年7月の鉱工業指数(速報)各指数の状況

生産・出荷・在庫・在庫率指数

月次	生産	出荷	在庫	在庫率
季調済指数	97.1	95.2	99.6	119.8
前月比	1.0%	1.6%	0.0%	1.6%
指数水準	2021. 7 98.1以来 I 2017. 12 105. 8 II 2018. 10 105. 6 III 2018. 3 105. 1	2021. 7 96.1以来 I 2014. 3 105. 7 II 2017. 12 105. 4 III 2014. 1, 2018. 4, 10 104. 4	—	2020. 8 124. 7以来 I 2020. 5 150. 5 II 2020. 6 138. 3 III 2020. 4 137. 6
前月比の動き	2か月連続+ (2022.6~当月)	2か月連続+ (2022.6~当月)	—	2か月ぶり+ (2022.5以来)
前月比幅	2022. 6 9. 2%以来 I 2022. 6 9. 2% II 2021. 6 7. 2% III 2020. 7 6. 9%	2022. 6 5. 0%以来 I 2020. 6 6. 9% II 2021. 11 5. 4% III 2020. 7 5. 3%	—	2022. 5 3. 1%以来 I 2020. 4 13. 3% II 2020. 5 9. 4% III 2014. 4 7. 4%
前年同月比(原指数)	-1.8%(98.2)	-1.6%(95.6)	4.5%(100.8)	8.2%(119.2)
前年同月比の動き	5か月連続- (2022.3~当月)	7か月連続- (2022.1~当月)	11か月連続+ (2021.9~当月)	11か月連続+ (2021.9~当月)
前年同月比幅	2022. 6 -2. 8%以来 ①2020. 5 -27. 0% ②2020. 6 -18. 4% ③2020. 7 -15. 9%	2022. 6 -2. 9%以来 ①2020. 5 -27. 5% ②2020. 4 -17. 0% ③2020. 7 -16. 8%	2022. 3 6. 8%以来 I 2022. 2 7. 1% II 2014. 11 7. 0% III 2022. 3 6. 8%	2022. 4 8. 4%以来 I 2020. 5 43. 5% II 2020. 4 29. 7% III 2020. 6 23. 9%

1) I～Ⅲは2015年基準における最大値から上位3位まで、①～③は最小値から下位3位までの数値

2022年7月の鉱工業生産の基調判断

「生産は一進一退」

基調判断の推移

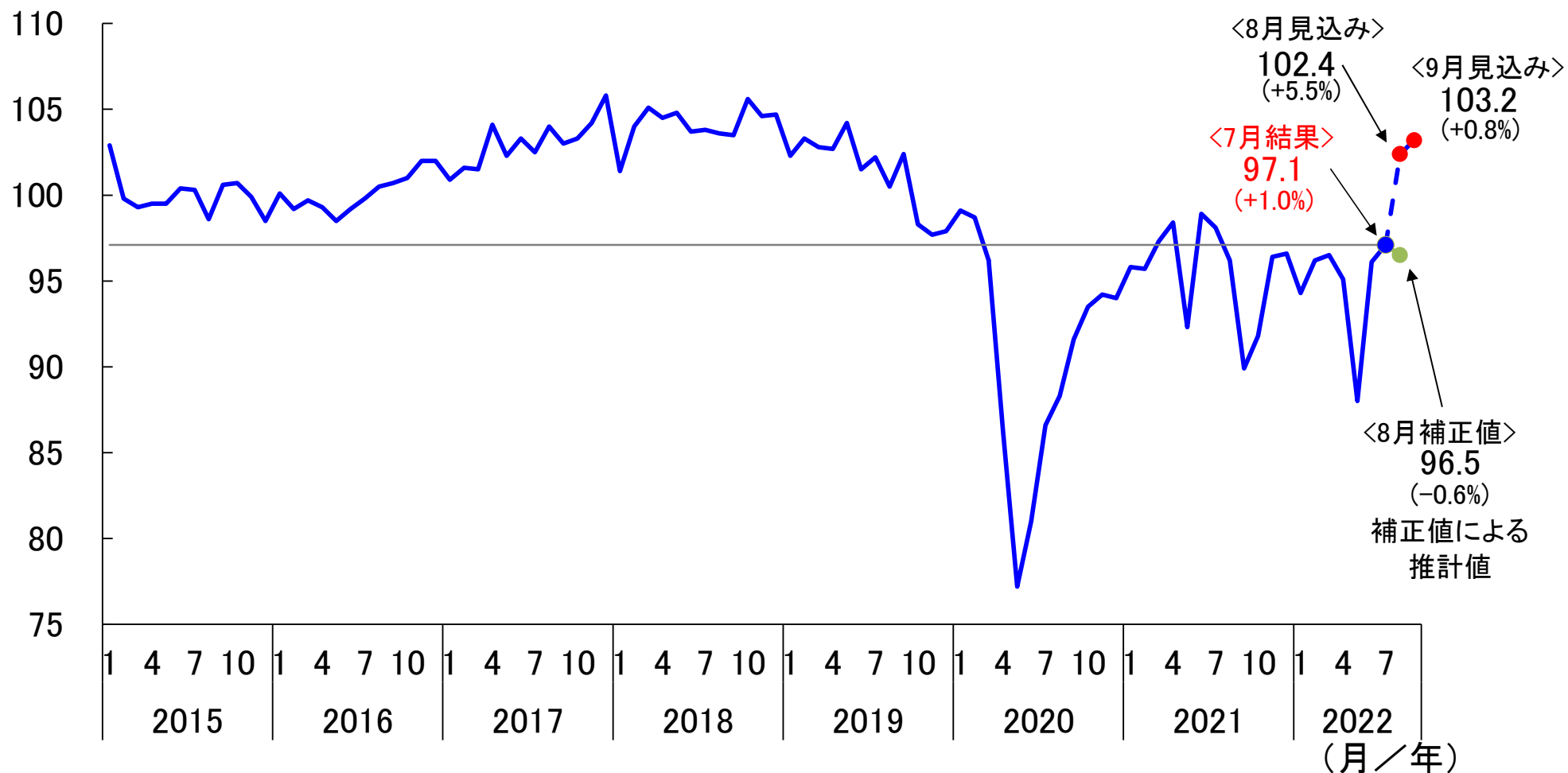
2019年3月	(↓)	「生産はこのところ弱含み」
2019年4月～7月	(↑)	「生産は一進一退」
2019年8月～9月	(↓)	「生産はこのところ弱含み」
2019年10月～12月	(→)	「生産は弱含み」
2020年1月～2月	(↑)	「生産は一進一退ながら弱含み」
2020年3月	(↓)	「生産は低下している」
2020年4月～5月	(↓)	「生産は急速に低下している」
2020年6月	(↑)	「生産は下げ止まり、持ち直しの動き」
2020年7月	(→)	「生産は持ち直しの動き」
2020年8月～2021年7月	(↑)	「生産は持ち直している」
2021年8月～10月	(↓)	「生産は足踏みをしている」
2021年11月～2022年3月	(↑)	「生産は持ち直しの動きがみられる」
2022年4月	(↓)	「生産は足踏みをしている」
2022年5月	(↓)	「生産は弱含み」
2022年6月～	(↑)	「生産は一進一退」

(注) 「↑」前回の基調判断から上方修正、「↓」前回の基調判断から下方修正、「→」表現変更

鋳工業生産指数の動向と先行き

・ 2022年7月の鋳工業生産指数は、97.1(前月比1.0%)と2か月連続の上昇。

(2015年=100、季節調整済)



(注) 鋳工業指数(IIP)とは、月々の鋳工業の生産、出荷、在庫等を基準年(現在は、2015年)の12か月平均=100として指数化したもので、事業所の生産活動、製品の需給動向など鋳工業全体の動きを示す代表的な指標

(注) 補正値は、製造工業生産予測指数がもつ傾向的な部分を修正し、実際の鋳工業指数の動きをより適切に把握できるように試算したもの

2022年7月の鉱工業生産指数を大きく動かした品目（業種別）

・ 2022年7月の鉱工業生産指数は、97.1（前月比1.0%）と2か月連続の上昇。

		業種・品目名	前月比	寄与度
【上昇方向に寄与】 鉱工業生産を上昇方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい 2品目	1位の業種	自動車工業	12.0%	1.69%pt
	品目	普通乗用車	12.3%	0.60%pt
		小型乗用車	14.5%	0.11%pt
	2位の業種	汎用・業務用機械工業	8.6%	0.64%pt
	品目	水管ボイラ	348.9%	0.26%pt
		コンベヤ	59.3%	0.21%pt
3位の業種	生産用機械工業	5.9%	0.55%pt	
品目	繊維機械	50.7%	0.13%pt	
	化学機械	107.5%	0.13%pt	
【低下方向に寄与】 鉱工業生産を低下方向へ 引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい 2品目	1位の業種	電子部品・デバイス工業	-9.2%	-0.66%pt
	品目	モス型半導体集積回路（メモリ）	-30.0%	-0.64%pt
		混成集積回路	-5.0%	-0.02%pt
	2位の業種	化学工業（除. 無機・有機化学工業・医薬品）	-4.9%	-0.20%pt
	品目	乳液・化粧水類	-12.9%	-0.14%pt
		合成洗剤	-8.4%	-0.05%pt
3位の業種	鉄鋼・非鉄金属工業	-1.6%	-0.09%pt	
品目	電気金	-10.4%	-0.02%pt	
	電力用電線・ケーブル	-19.1%	-0.02%pt	

※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

寄与度：生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

2022年7月の鉱工業生産指数を大きく動かした品目(全体・財別)

<全体>

		品目名	前月比	寄与度
鉱工業生産を 上昇方向に 引っ張った3品目	1位	普通乗用車	12.3%	0.60%pt
	2位	水管ボイラ	348.9%	0.26%pt
	3位	コンベヤ	59.3%	0.21%pt
鉱工業生産を 低下方向に 引っ張った3品目	1位	モス型半導体集積回路(メモリ)	-30.0%	-0.64%pt
	2位	医用電子応用測定器	-60.9%	-0.20%pt
	3位	乳液・化粧水類	-12.9%	-0.14%pt

※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

<財別＝用途別>

	解説	品目名	前月比	寄与度
資本財 (除. 輸送機械)	クレーンや金属工作機械など 設備投資に向けられる製品	資本財(除. 輸送機械)	7.9%	1.20%pt
		水管ボイラ	348.9%	0.26%pt
		コンベヤ	59.3%	0.21%pt
耐久消費財	テレビや電気冷蔵庫など 家計で購入される製品	耐久消費財	7.2%	0.55%pt
		普通乗用車	12.3%	0.51%pt
		小型乗用車	14.5%	0.11%pt
生産財	原材料として投入される製品	生産財	-0.1%	-0.05%pt
		モス型半導体集積回路(メモリ)	-30.0%	-0.64%pt
		リチウムイオン蓄電池	-8.8%	-0.05%pt
建設財	鉄骨やセメントなど 建設投資に向けられる製品	建設財	-2.4%	-0.14%pt
		セメント	-8.8%	-0.05%pt
		アルミニウム製建具	-4.9%	-0.03%pt
非耐久消費財	食料品や衣料品など 家計で購入される製品	非耐久消費財	-1.2%	-0.22%pt
		乳液・化粧水類	-12.9%	-0.14%pt
		合成洗剤	-8.4%	-0.05%pt

※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

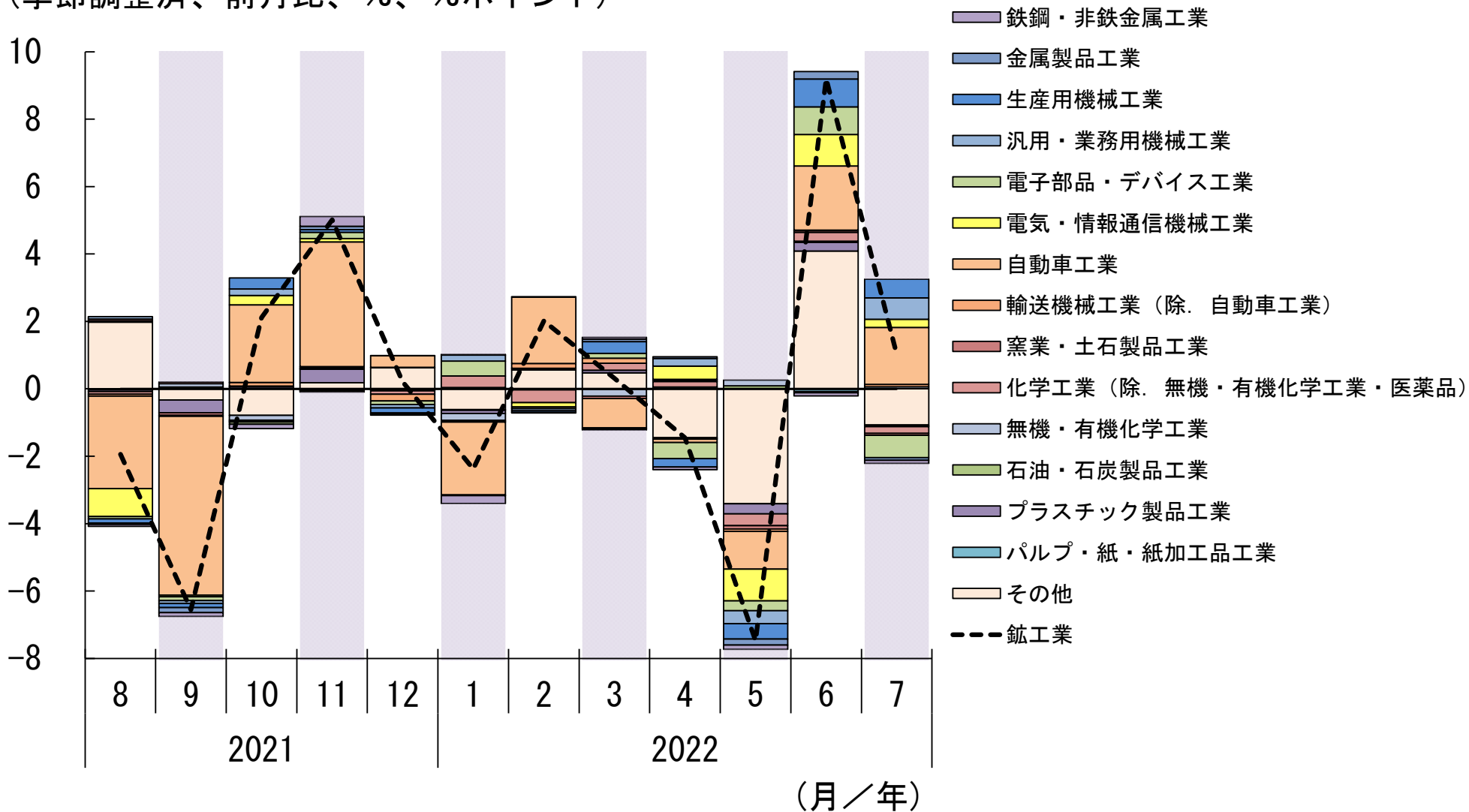
寄与度： 生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

鋳工業生産前月比 業種別の影響度合い

・2022年7月の生産指数は、電子部品・デバイス工業などが低下したものの、自動車工業などが上昇したため、前月比1.0%の上昇。

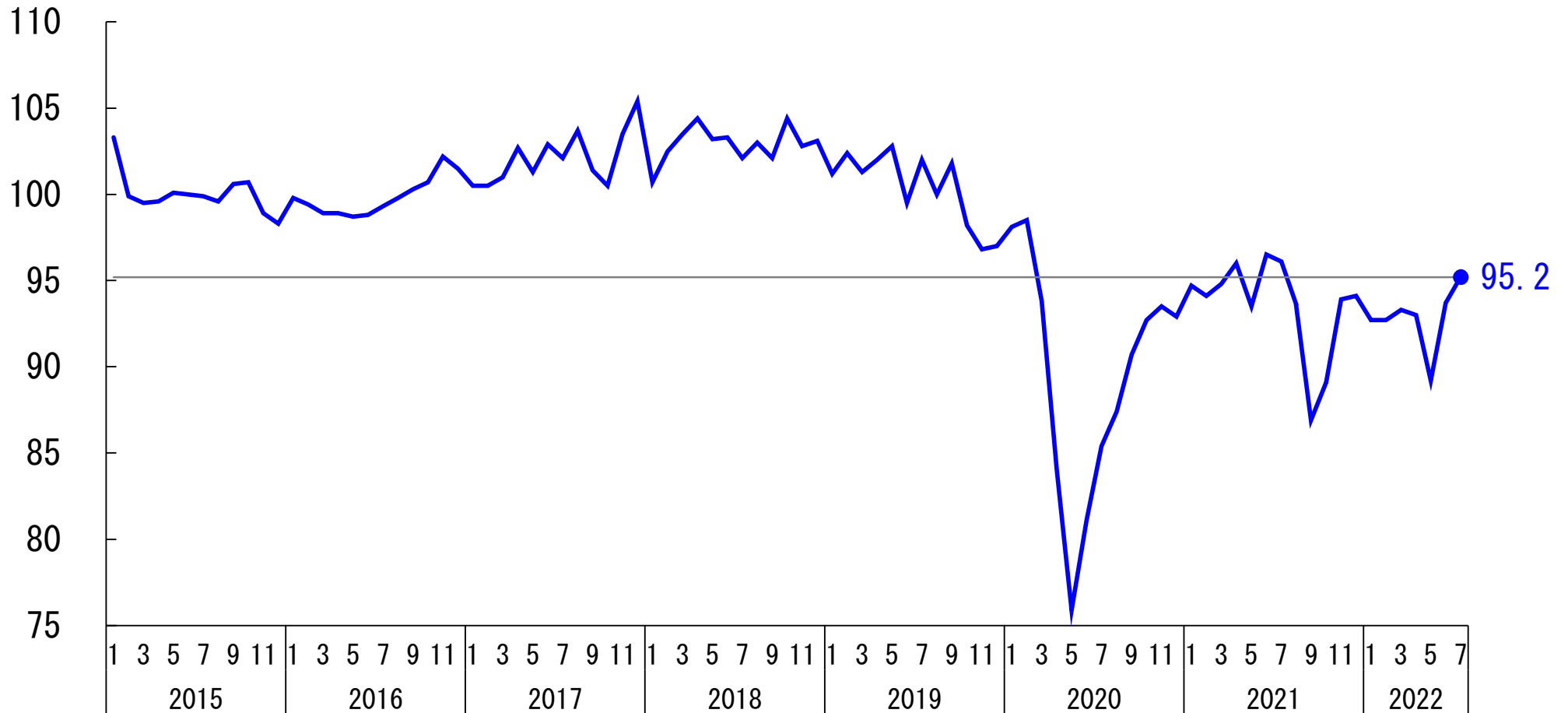
(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



鋳工業出荷指数の動向

・ 2022年7月の鋳工業出荷指数は、95.2(前月比1.6%)と2か月連続の上昇。

(2015年=100、季節調整済)



(月／年)

2022年7月の鉱工業出荷指数を大きく動かした品目（業種別）

・ 2022年7月の鉱工業出荷指数は、95.2（前月比1.6%）と2か月連続の上昇。

		業種・品目名	前月比	寄与度
【上昇方向に寄与】 鉱工業出荷を上昇方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい 2品目	1位の業種	自動車工業	10.5%	1.50%pt
	品目	普通乗用車	18.9%	1.02%pt
		普通トラック	10.6%	0.13%pt
	2位の業種	汎用・業務用機械工業	7.6%	0.48%pt
	品目	水管ボイラ	282.3%	0.19%pt
		コンベヤ	55.9%	0.15%pt
3位の業種	生産用機械工業	3.7%	0.30%pt	
品目	ショベル系掘削機械	10.2%	0.13%pt	
	化学機械	106.8%	0.11%pt	
【低下方向に寄与】 鉱工業出荷を低下方向へ 引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい 2品目	1位の業種	電子部品・デバイス工業	-3.3%	-0.19%pt
	品目	モス型半導体集積回路（メモリ）	-28.1%	-0.32%pt
		線形半導体集積回路	-8.9%	-0.02%pt
	2位の業種	鉄鋼・非鉄金属工業	-2.0%	-0.17%pt
	品目	普通鋼鋼帯	-11.3%	-0.09%pt
		鋼半製品	-18.5%	-0.05%pt
3位の業種	石油・石炭製品工業	-2.5%	-0.16%pt	
品目	軽油	-7.6%	-0.10%pt	
	重油	-5.3%	-0.04%pt	

※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

寄与度： 生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

2022年7月の鉱工業出荷指数を大きく動かした品目(財別)

	解説	品目名	前月比	寄与度
資本財 (除. 輸送機械)	クレーンや金属工作機械など 設備投資に向けられる製品	資本財 (除. 輸送機械)	6.8%	0.93%pt
		水管ボイラ	282.3%	0.19%pt
		コンベヤ	55.9%	0.15%pt
耐久消費財	テレビや電気冷蔵庫など 家計で購入される製品	耐久消費財	8.0%	0.67%pt
		普通乗用車	18.9%	0.87%pt
		小型乗用車	9.8%	0.09%pt
生産財	原材料として投入される製品	生産財	-0.1%	-0.06%pt
		リチウムイオン蓄電池	-46.3%	-0.36%pt
		モス型半導体集積回路 (メモリ)	-28.1%	-0.32%pt
建設財	鉄骨やセメントなど 建設投資に向けられる製品	建設財	-3.1%	-0.17%pt
		ガス温水給湯暖房機・風呂がま	-12.1%	-0.05%pt
		アルミニウム製建具	-6.3%	-0.03%pt
非耐久消費財	食料品や衣料品など 家計で購入される製品	非耐久消費財	-1.2%	-0.19%pt
		乳液・化粧品類	-10.2%	-0.06%pt
		灯油	-10.6%	-0.02%pt

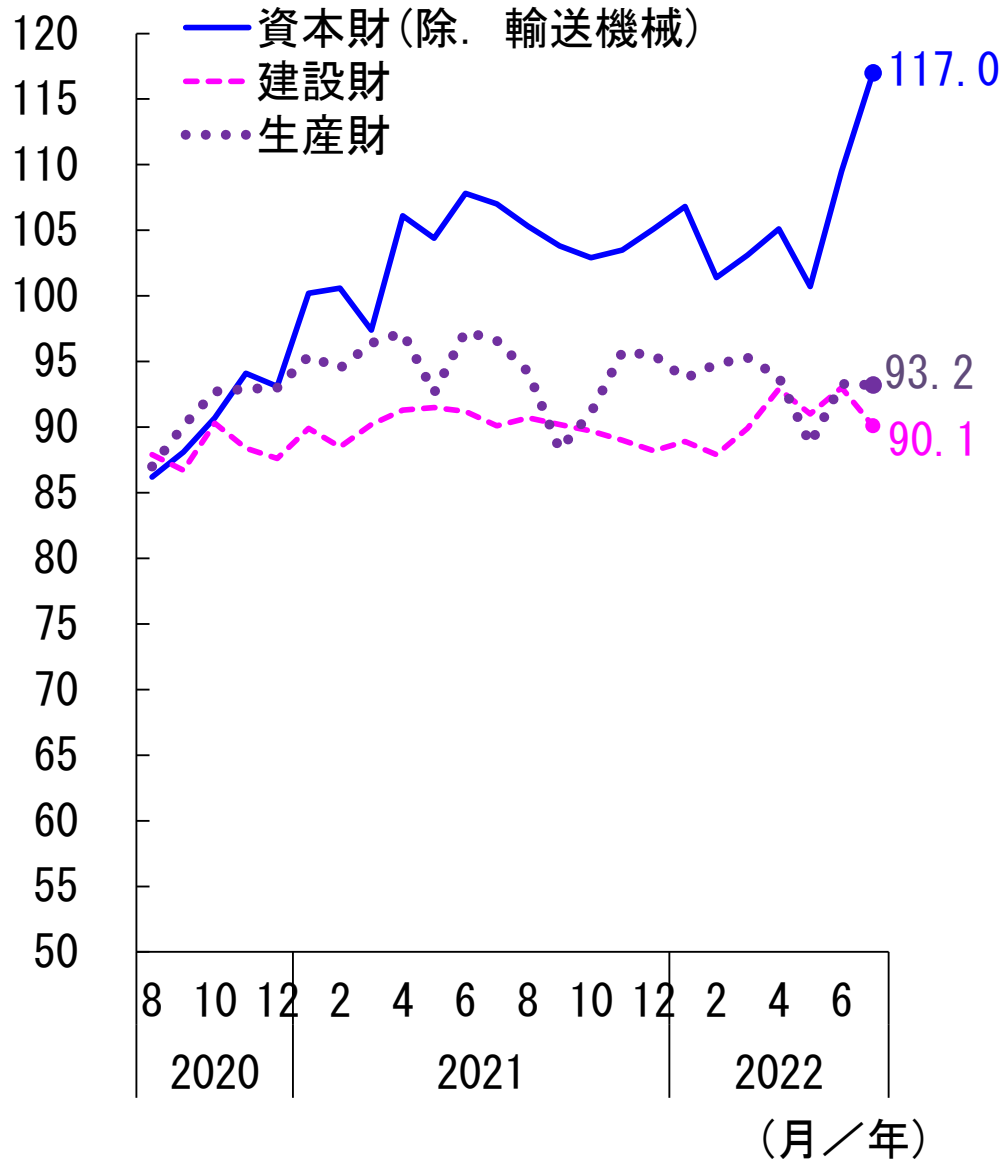
※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

寄与度： 生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

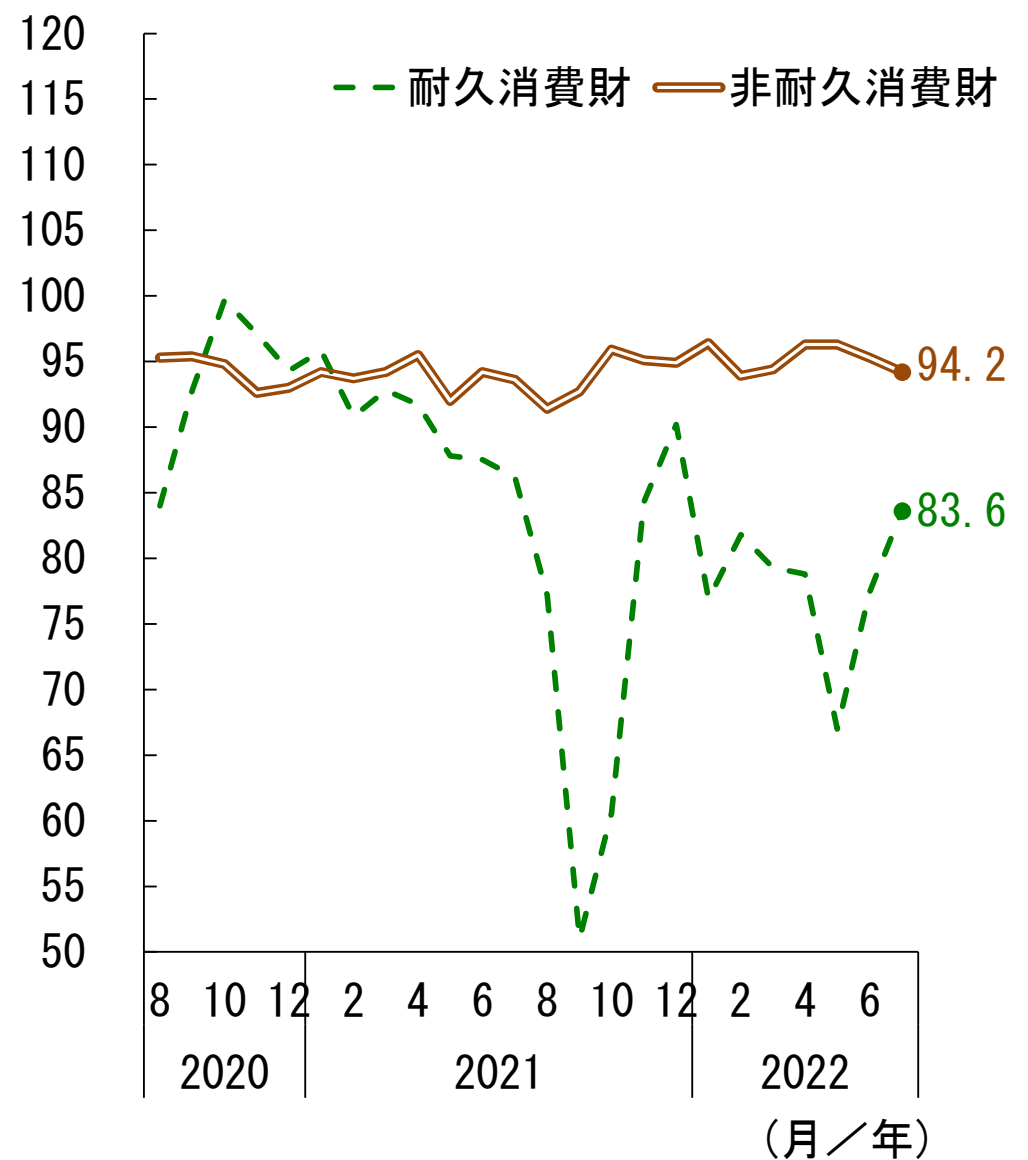
季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

財別出荷指数の動向

(2015年=100、季節調整済)



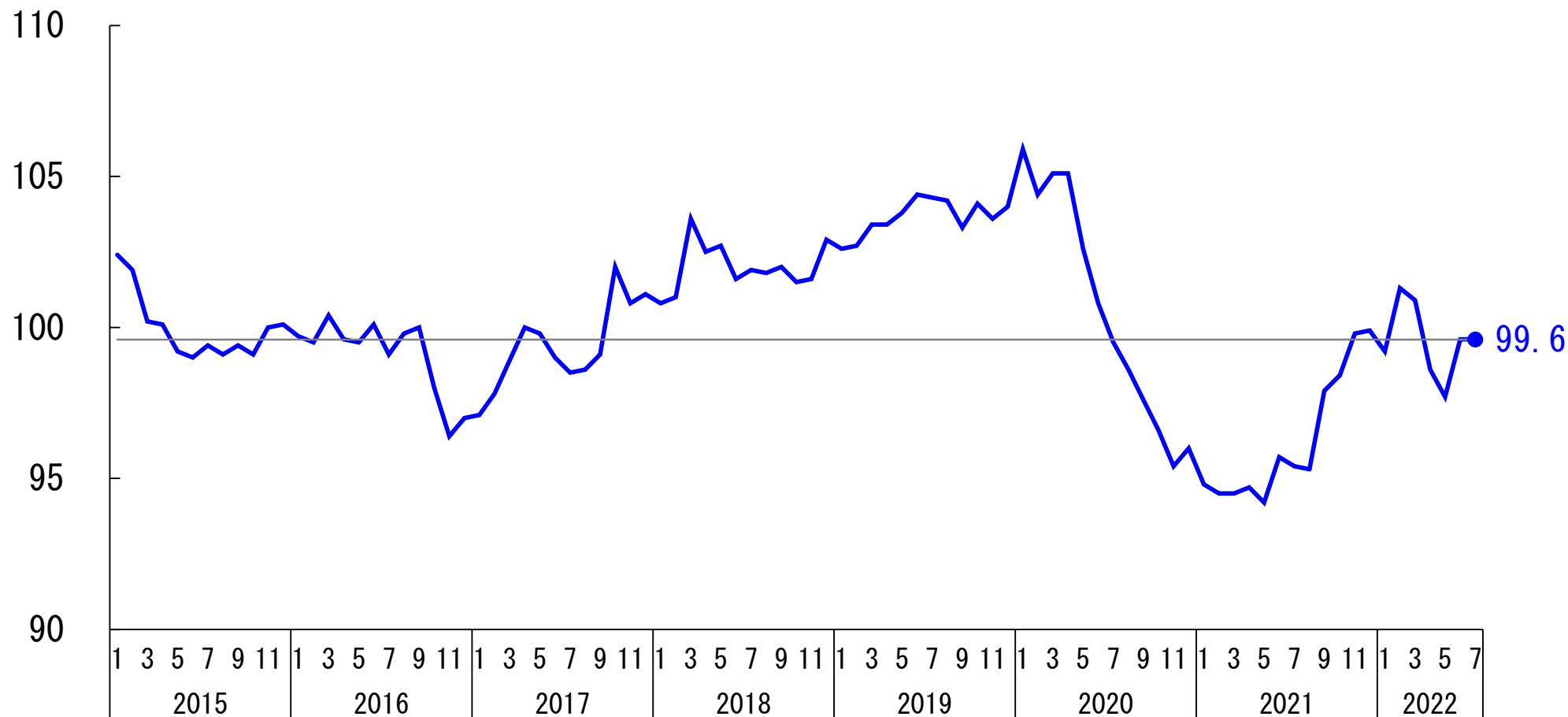
(2015年=100、季節調整済)



鋳工業在庫指数の動向

・ 2022年7月の鋳工業在庫指数は、99.6(前月比0.0%)と横ばい。

(2015年=100、季節調整済)



(月／年)

2022年7月の鉱工業在庫指数を大きく動かした品目（業種別）

・ 2022年7月の鉱工業在庫指数は、99.6（前月比0.0%）と横ばい。

		業種・品目名	前月比	寄与度
【上昇方向に寄与】 鉱工業在庫を上昇方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい 2品目	1位の業種	生産用機械工業	4.6%	0.20%pt
	品目	ショベル系掘削機械	5.7%	0.06%pt
		建設用クレーン	17.8%	0.06%pt
	2位の業種	無機・有機化学工業	1.8%	0.20%pt
	品目	合成ゴム	10.0%	0.23%pt
		ポリエチレン	5.0%	0.07%pt
3位の業種	石油・石炭製品工業	3.8%	0.19%pt	
品目	ジェット燃料油	21.5%	0.12%pt	
	軽油	10.8%	0.06%pt	
【低下方向に寄与】 鉱工業在庫を低下方向へ 引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい 2品目	1位の業種	自動車工業	-9.7%	-0.77%pt
	品目	普通乗用車	-15.4%	-0.63%pt
		軽乗用車	-22.2%	-0.05%pt
	2位の業種	電子部品・デバイス工業	-10.2%	-0.42%pt
	品目	アクティブ型液晶パネル（大型）	-15.3%	-0.13%pt
		アクティブ型液晶パネル（中・小型）	-24.8%	-0.10%pt
3位の業種	化学工業（除. 無機・有機化学工業・医薬品）	-1.4%	-0.10%pt	
品目	頭髮用化粧品	-7.1%	-0.08%pt	
	洗顔クリーム類	-14.9%	-0.06%pt	

※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

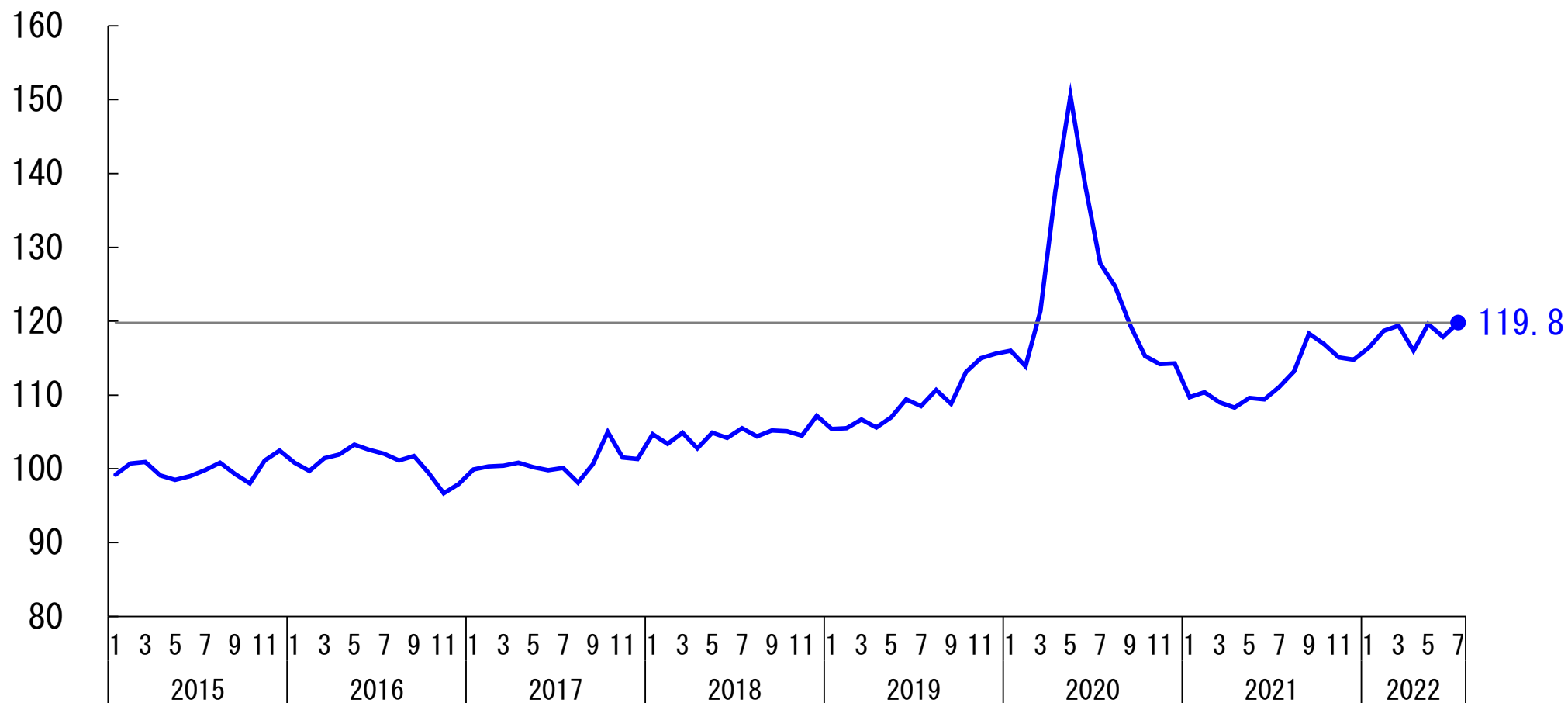
寄与度： 生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

鋳工業在庫率指数の動向

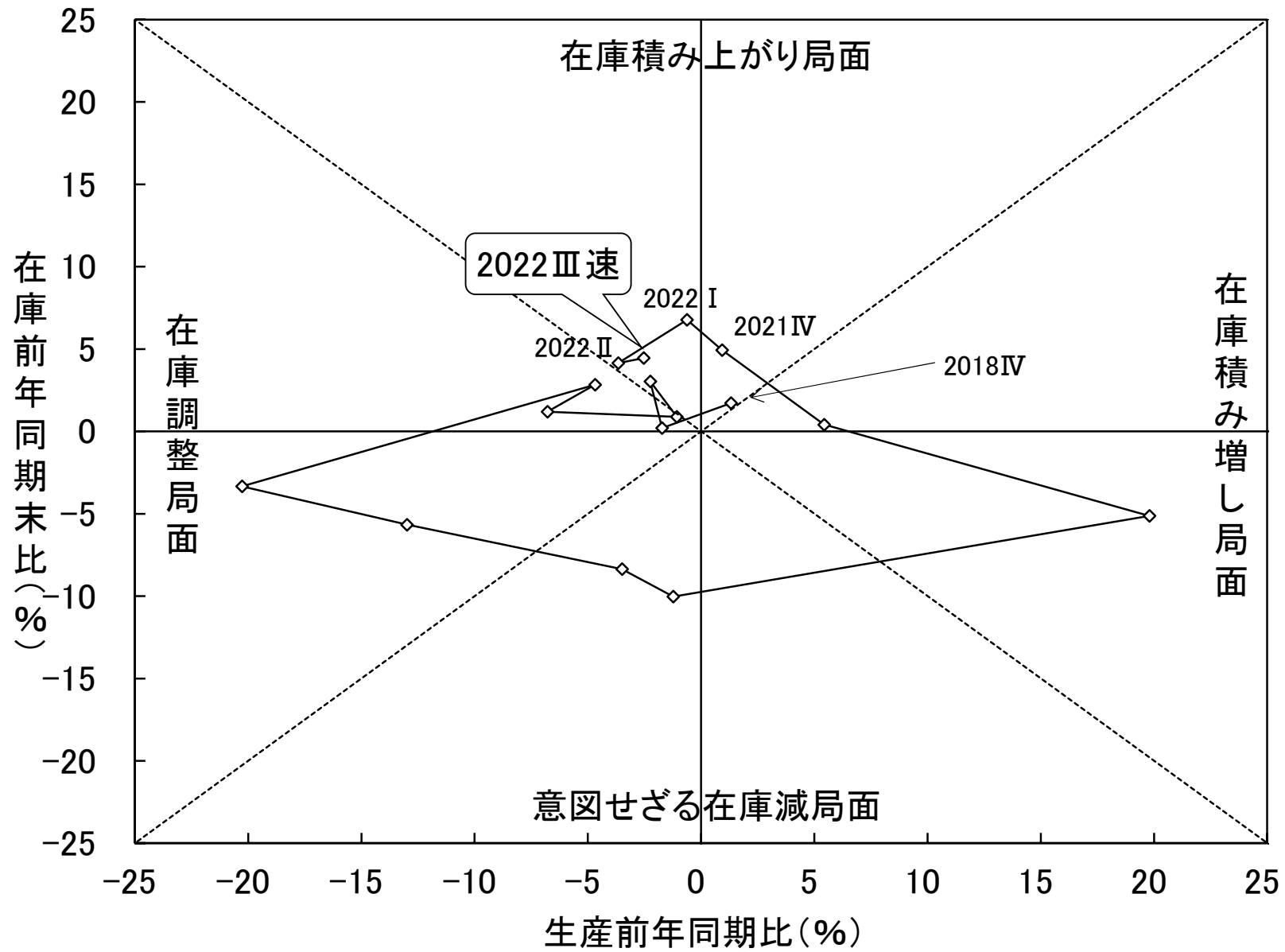
・ 2022年7月の鋳工業在庫率指数は、119.8(前月比1.6%)と2か月ぶりの上昇。

(2015年=100、季節調整済)



(月／年)

鋁工業の在庫循環図



(注) 「2022Ⅲ速」の生産は5月、6月、7月の平均値、在庫は7月末の値を使用

製造工業生産予測指数 時系列

<製造工業>

2015年 = 100

年 月	季節調整済指数			前月比 (%)			実現率 (%)	予測修正率 (%)	
	前月実績	当月見込み	翌月見込み	前月実績	当月見込み	翌月見込み			
2021年	6月調査	96.1	104.9	103.2	▲ 5.1	9.2	▲ 1.6	▲ 4.9	▲ 0.8
	7月調査	102.9	102.1	104.6	7.1	▲ 0.8	2.4	▲ 1.9	▲ 1.1
	8月調査	99.0	103.5	104.4	▲ 3.8	4.5	0.9	▲ 3.0	▲ 1.1
	9月調査	97.9	97.9	105.4	▲ 1.1	0.0	7.7	▲ 5.4	▲ 6.2
	10月調査	94.3	101.1	105.6	▲ 3.7	7.2	4.5	▲ 3.7	▲ 4.1
	11月調査	95.5	102.8	105.2	1.3	7.6	2.3	▲ 5.5	▲ 2.7
	12月調査	100.7	102.4	107.7	5.4	1.7	5.2	▲ 2.0	▲ 2.7
2022年	1月調査	99.7	105.1	106.4	▲ 1.0	5.4	1.2	▲ 2.6	▲ 2.4
	2月調査	97.9	102.6	103.7	▲ 1.8	4.8	1.1	▲ 6.9	▲ 3.6
	3月調査	97.8	102.3	110.6	▲ 0.1	4.6	8.1	▲ 4.7	▲ 1.4
	4月調査	100.9	106.8	105.9	3.2	5.8	▲ 0.8	▲ 1.4	▲ 3.4
	5月調査	97.3	102.0	111.1	▲ 3.6	4.8	8.9	▲ 8.9	▲ 3.7
	6月調査	92.3	103.4	106.0	▲ 5.1	12.0	2.5	▲ 9.5	▲ 6.9
	7月調査	101.1	104.9	111.2	9.5	3.8	6.0	▲ 2.2	▲ 1.0
	8月調査	99.5	105.0	105.8	▲ 1.6	5.5	0.8	▲ 5.1	▲ 5.6

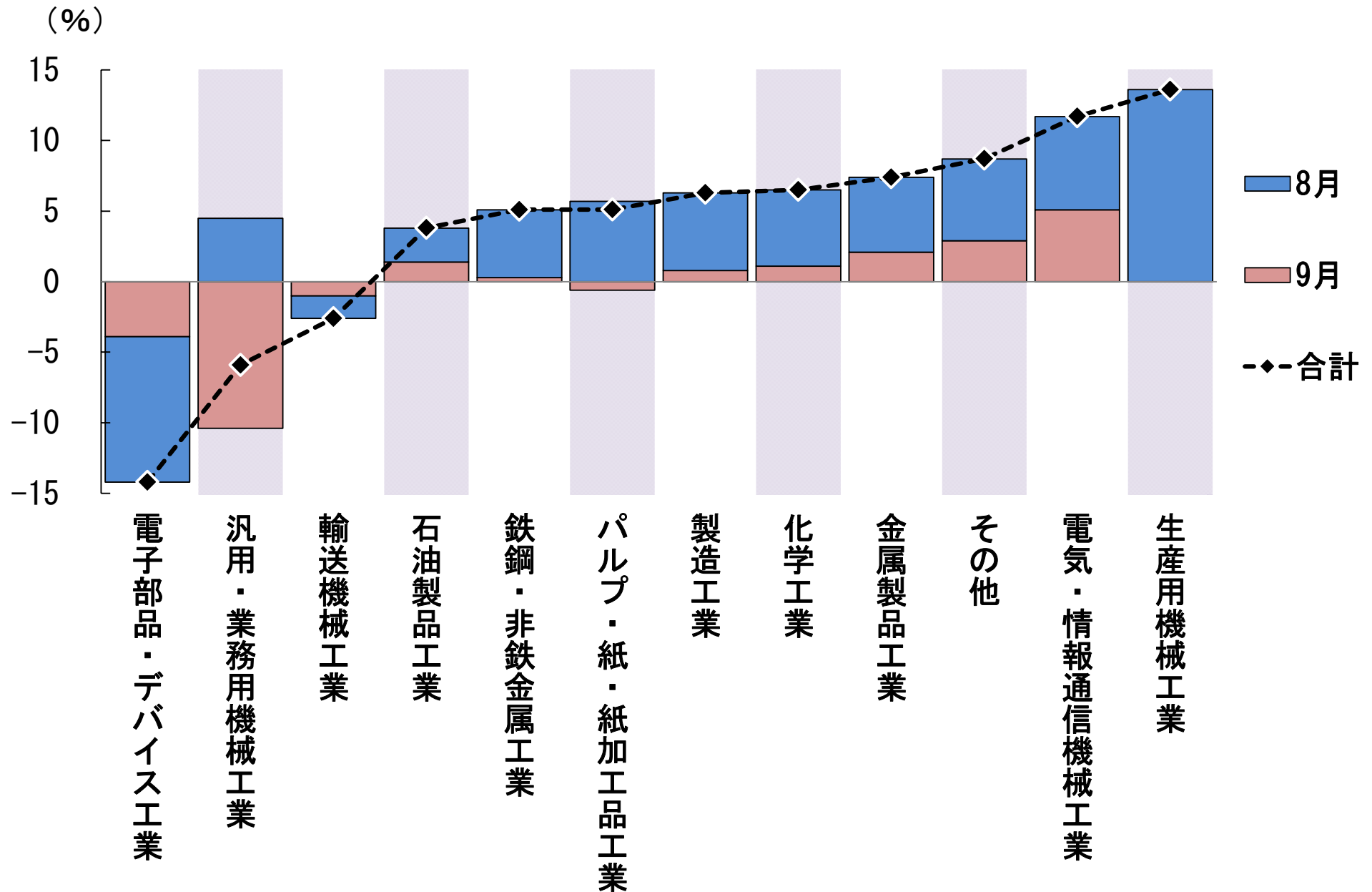
製造工業生産予測指数（当月、翌月の生産伸び率）

	7月調査 (前回)		8月調査 (今回)	8月調査 補正值
8月見込み	6.0 %	⇒	5.5 %	-0.6 % (-2.9%~1.7%)
9月見込み	—		0.8 %	—

(参考) 前回調査の結果

	7月予測調査	7月補正值	実際の結果 鉱工業生産指数
7月前月比	3.8 %	-0.9 % (-3.1%~1.3%)	1.0 %

2か月の生産予測伸び率（製造工業生産予測指数）



2022年8月生産計画の寄与順位表

上昇寄与業種		低下寄与業種		横ばいの業種	
業種名	計画前月比	業種名	計画前月比	業種名	計画前月比
生産用機械工業	13.6%	電子部品・デバイス工業	-10.3%	—	—
化学工業	5.4%	輸送機械工業	-1.6%		
電気・情報通信機械工業	6.6%				
汎用・業務用機械工業	4.5%				
その他	5.8%				
鉄鋼・非鉄金属工業	4.8%				
金属製品工業	5.3%				
パルプ・紙・紙加工品工業	5.7%				
石油製品工業	2.4%				

(注) 業種の並びは、寄与（影響度）が大きい順。

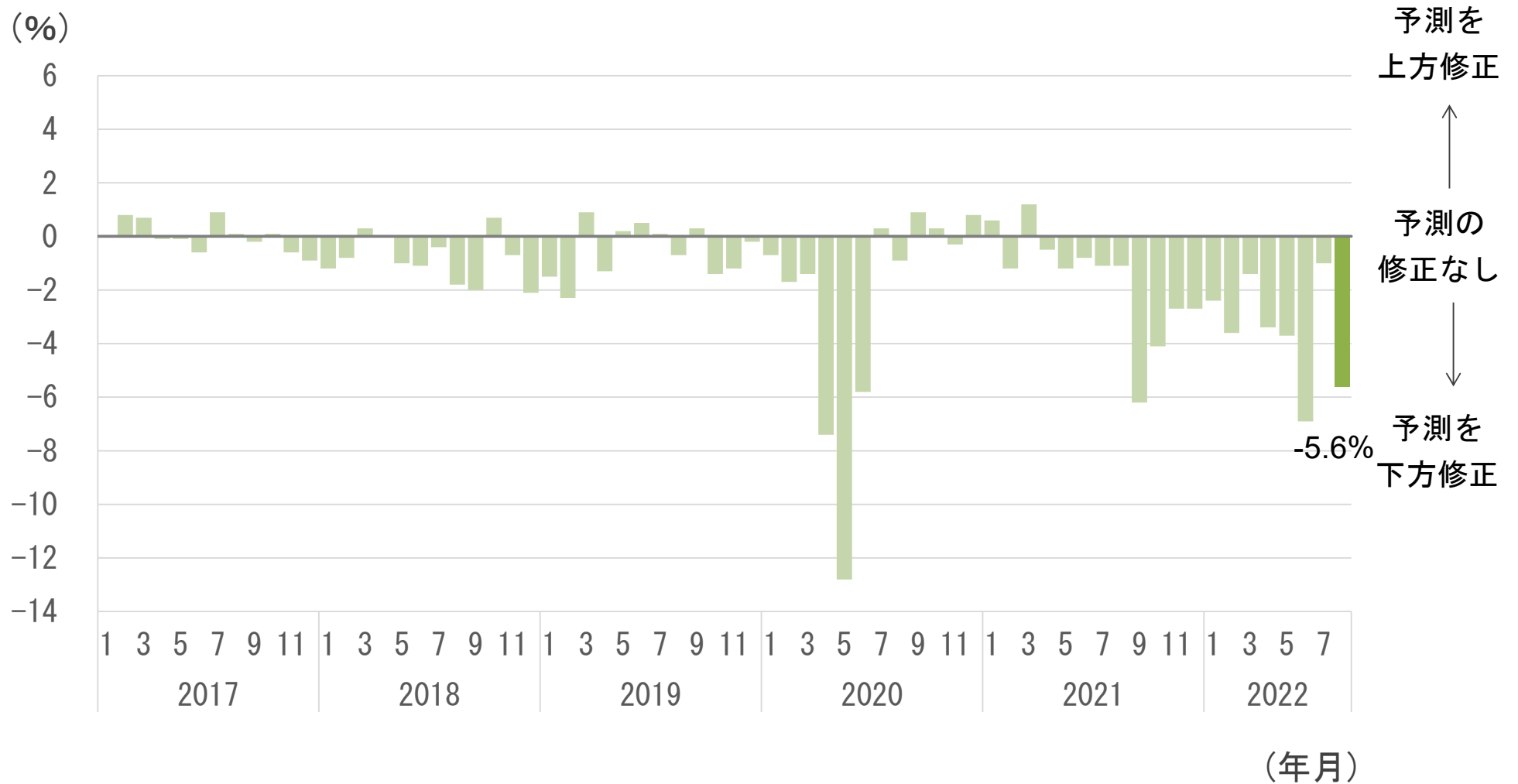
2022年9月生産計画の寄与順位表

上昇寄与業種		低下寄与業種		横ばいの業種	
業種名	計画前月比	業種名	計画前月比	業種名	計画前月比
電気・情報通信機械工業	5.1%	汎用・業務用機械工業	-10.4%	生産用機械工業	0.0%
その他	2.9%	電子部品・デバイス工業	-3.9%		
化学工業	1.1%	輸送機械工業	-1.0%		
金属製品工業	2.1%	パルプ・紙・紙加工品工業	-0.6%		
鉄鋼・非鉄金属工業	0.3%				
石油製品工業	1.4%				

(注) 業種の並びは、寄与（影響度）が大きい順。

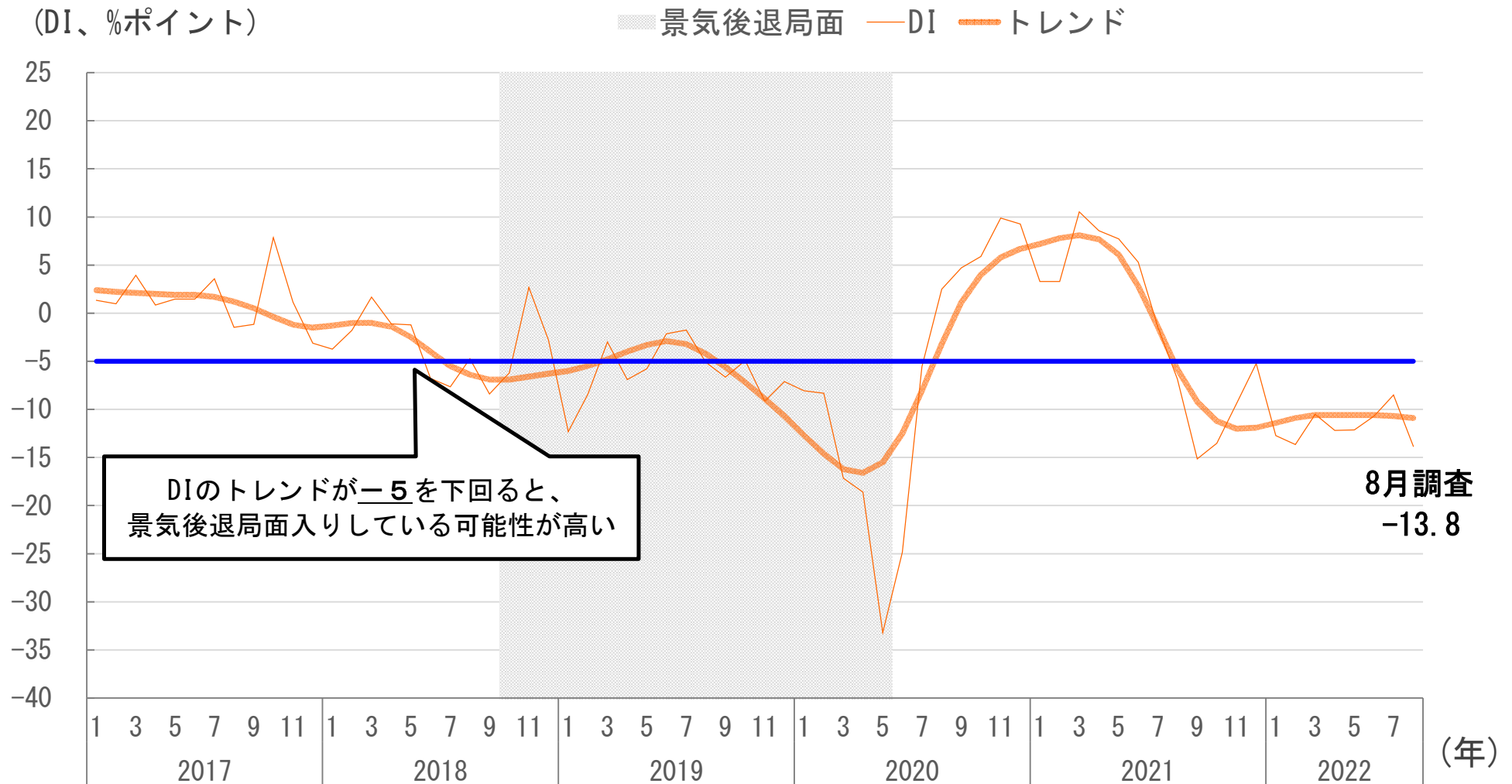
予測修正率の推移

- ・ 当月の生産計画が前回の生産計画からどの程度修正されたかを示したものが予測修正率となる。
- ・ 今回の調査では、予測修正率は-5.6%と低下。
- ・ 生産計画は17か月連続の下方修正となった。



企業の生産活動に対する姿勢（生産活動マインド指標（DI））

- ・生産計画を上方修正している企業の割合から下方修正している企業の割合を差し引くことで企業の生産活動マインドを指標（DI）化。
- ・DIのトレンドが-5を下回ると景気後退局面入りの可能性が高い。
- ・8月調査結果のDIは、-13.8（前月の-8.5から低下）。トレンドは-10.9と-5を下回る水準。



強気と弱気の比率の変化

・8月調査結果のDIの内訳をみると、強気が21.5%、弱気が35.3%となっている。7月と比べて強気の割合は減少し、弱気の割合は増加した。

